

3 学期終業式 式辞

みなさんおはようございます。さくらのつぼみが膨らみ、春色の深まりを感じる季節となりました。本日は、3 学期終業式、飛躍の30 年度が終了します。一つの区切りの日でもあります。まずは、本年度みなさんに伝えたことを少し振り返ります。「始まりの日に志を立てること」「他人の責任にせず、自分を攻め自分に勝つこと」「国際化の進展に乗り遅れないこと」「みなさんの活躍する舞台は無限大に広がっていること」「分析してチャレンジしロマンを掻き立てること」「美しく生きること」「非認知能力：レジリエンス：しなやかな強さを身に付けること」「挨拶・思いやり・様々な学びを忘れないこと」「正しく生きること」「時に過去を振り返り自分を愛してくれた人や環境に感謝すること」「使命感をもつこと」など、みなさんに気持ちを込めて伝えた主な内容です。どうでしたか実行できましたか、時間がある時に必ず振り返ってください。

さて、まもなく新たな年号で日本社会の新しい時代が幕を開きます。更なる飛躍をめざし、チーム翔南として、気持ちを一新、新しい歩みに踏み出したいものです。そこで、本日は踏み出す社会はどのような社会か、その中で高等教育において何をどのように学ぶかを伝えたいと思います。

まず踏み出す社会は、価値観の変化で伝統的に受け継がれてきたシンプルな社会からライフスタイルの幅が拡大した多様な社会へと変わっています。国境を超えて人も資金も技術も濃密に交流する国際化の進展も大きく進んでいます。このように変化が激しく多様な社会では答えは一つではなく、常にグローバルな視点と柔軟な発想・創造性をもとめられます。自分の価値観を普遍的なものだと捉えず経験や学びを通して変化させてください。

このような変化の激しい社会に対応するため、主体的・対話的・深い学びが求められています。「主体的な学び」とは、能動的に動きまわれば良いというものでなく、自分なりの課題意識・問題意識をもつ、エゴインボルブメント（自我関与）が不可欠となります。「対話的な学び」とは、自分自身の考え方を見失うことなく自分のものとは異なった感覚や発想、結論に向けて自分自身を開き、自他の意見の擦り合わせを行うことです。「深い学び」とは、生涯、生きる力の財産となる学び、自分自身の実感・納得・本音に根差した学びを言います。新しい時代の始まりにあたり、社会の変化と学びについて伝えておきます。

さて間もなく、新しい時代とともに新入生が入学します。上級生としての自覚を持ち新入生を暖かく迎えてください。

終わりになりますが新しい時代が皆さんにとってより飛躍の年となることを期待して式辞とします。